

偉大なる凱旋!!

アメリカン・ブラック・ミュージックの



黒人音楽史上最もシンボリックなソウル・フェス、その伝説的なライブ・パフォーマンスの全記録!

SOUL TO SOUL

ソウル トゥ ソウル ~魂の詩~

WILSON PICKETT/ IKE & TINA TURNER/SANTANA with guest artist WILLIE BOBO/ROBERTA FLACK
THE STAPLE SINGERS/ LES McCANN & EDDIE HARRIS/THE VOICES OF EAST HARLEM/DAMAS CHOIR
KUMASI DRUMMERS/TAMALE BAMAYA GROUP/SANDEMA LEELIK DANCERS/etc.

SOUL TO SOUL <IKE & TINA TURNER>
IN THE MIDNIGHT HOUR <WILSON PICKETT>
RUN SHAKER LIFE <THE VOICES OF EAST HARLEM>
JUNGLE STRUT <SANTANA> WAITING <SANTANA>
BLACK MAGIC WOMAN <SANTANA> GYPSY QUEEN <SANTANA>
THE PRICE YOU GOT TO PAY TO BE FREE
<LES McCANN & EDDIE HARRIS>
HEY JOLER <L. McCANN & E. HARRIS>

GONE AWAY <ROBERTA FLACK>
OH FREEDOM <ROBERTA FLACK>
WHEN WILL WE BE PAID <THE STAPLE SINGERS>
ARE YOU SURE <THE STAPLE SINGERS>
OOH POO PAH DOO <IKE & TINA TURNER>
RIVER DEEP MOUNTAIN HIGH <IKE & TINA TURNER>
I SMELL TROUBLE <IKE & TINA TURNER>
LAND OF THOUSAND DANCES <WILSON PICKETT>

Director: DENIS SANDERS Producer: JOSEF SHAFTELL/EDWARD MOSK RICHARD BOCK/TOM MOSK Musical Director: RICHARD BOCK Director of Photography: ERIK DAARSTAD 1971年度作品 アメリカ映画 カラー 1時間35分



配給: ヘラルド・エンタープライズ 協力: 日本コロムビア/JAVN 

ソウルの意味なんて、聞いてくれるな。ただ感じるのさ!

すべてが伝説的なライブ・パフォーマンス

ウィルソン・ピケット

黒人音楽史上、最もシンボリックなソウル・フェスティバル



★ピーター・バラカン

「ソウル・トゥ・ソウル」のフィナーレの「ダンス天国」を歌う前に、ウィルソン・ピケットはロンドンへ行った時にリンゴ・スターに「ソウルって何なんだ?」と聞かれた話をする。「ソウル?それは、言葉では言えないな、感じてもらわなくちゃだめだね」、ウィルソンの答えはもちろんそのようなことだ。

ソウルには歌詞も要らない、と思う時がある。ジェームズ・ブラウンのレコードから受ける刺激は、J・Bに悪いけど、彼のメッセージとはおよそ関係ない。真に彼の魂から僕の魂への直接のコミュニケーションである。

幾世代も離れているアフリカのルーツへ初めて「戻る」、アメリカの黒人ミュージシャンたちとガーナとの対面の中にも、言葉では表現しにくく、複雑で微妙な瞬間が沢山ある。この興味深さとコンサート自体のスリルのためにこの映画を思い切ってすすめます。

解説

60年代後半に隆盛を向えたアメリカ公民権運動は、黒人たちをアフリカ、つまり彼らの母なる大地へと導いた。その象徴的な出来事が、この映画に収められた「ソウル・トゥ・ソウル」フェスティバルだ。

1971年3月6日、ガーナ独立記念日に首都アクラのブラック・スター・スクエアで開催されたこの大音楽祭には、ウィルソン・ピケットをはじめ、アイク&ティナ・ターナー、サンタナ、ウィリー・ボボ、ロバータ・フラックなどが参加。彼ら全員が今も伝説として語り伝えられる程の、決定的なライブ・パフォーマンスを繰り広げた。

同胞たちの熱い歓迎ぶりも観る人を感動させずにはおかない。現地の音楽や踊り、儀式、あるいは史跡なども収録されており、貴重な記録映画となっている。アメリカ本土、ロス・アンゼルスで行なわれた「ワッツ・タックス」と共に黒人音楽史上でも重大なフェスティバルの記録がこれだ。



ウィルソン・ピケット
WILSON PICKETT

1941年アラバマ州生まれ。テロイトのヴォーカル・グループ、ファルコンズのリード・シンガーをつとめた後、独立。64年からアトランティック・レコードで、「イ・ザ・ミッドナイト・アワー」「ダンス天国」「ムスタンク・サリー」等のヒットでトップ・スターの座に着く。力強いシャウト・唱法を身上として、いかにもソウル・マンらしいダイナミックなステージに定評がある。過去2回の来日経験あり。



ロバータ・フラック
ROBERTA FLACK

1941年ノースカロライナ州生まれ。その後ワシントンへ移り育つ。ハーワード大学音楽部を卒業。就職につきながら、67年頃からクラブでのピアノ弾き語りをはじめ。69年アトランティック・レコードにスカウトされ、70年発表のLP「ファースト・タイム」の大ヒットでスターの座に着く。その後、ダニー・ハザウェイとのデュオなどを経て、73年「やさしく歌って」、全世界的な存在になった。



サンタナ
SANTANA

メキシコ生まれのギター奏者、カルロス・サンタナをリーダーとするラテン・ロック・バンド。60年代後半からサンフランシスコで活動を始め、当地のライブ・ハウス、フィルモア・ウェストのオーナー、ビル・グレアムのお気に入りだった。68年頃ブルース・ロックからラテン・ロックへ転向し、新境地を開く。デビュー・アルバム「サンタナ」やウッドストック・フェスティバルでのパフォーマンスが評判を呼び、70年発表の「天の守護神」は全世界的ベストセラーとなった。



アイク・アンド・ティナ・ターナー
IKE & TINA TURNER

今やポップ界で大モテの女王、ティナ・ターナー。彼女を世に出したのが、このアユオで、当時は夫婦だった。もともとは南部でレビュー形式のショー・バンドを組んでいたアイク・ターナーのところへ、1956年に専属歌手としてティナが参加し、後にデュオとなって売出す。ブルースやアティープなR&Bの感覚を、派手なサウンドやアレンジ、そしてエンターテインメントたっぷりのショー構成で消化したところが魅力だった。



レス・マックヤン
LES McCANN

1933年(35年説もある)ケンタッキー州生まれ。56年に船員除隊後、ハリウッドのウエストレイク音楽学校に学び、58年に自己のトリオを結成した。ゴスペル調のソウル・ジャズは、その「あく」の強さで定評がある。エディ・ハリスとは68年から共演しており、モントルー・ジャズ・フェスティバルの実況版「スィム・ムーヴメント」はベストセラーになった。



ウィリー・ボボ
WILLIE BOBO

1934年、ニューヨーク生まれ。父親はギタリストだった。ドラムを独学で得られ、マチャート楽団のバンド・ボーイを足がかりにプロの世界に入る。54年にキューバ人の打楽器奏者ティート・ブエンテの楽団に参加。以降カル・ジェイダ、ハービー・マン、マイルス・デイヴィス等とも共演している。

音楽評論家
鷲巣 功

STAFF/Directed by DENIS SANDERS/Produced by JOSEF SHAFTTELL, EDWARD MOSK, RICHARD BOCK, TOM MOSK/Musical Director RICHARD BOCK/Edited by SIDNEY LEVIN/Director of Photography ERIK DAARSTAD
Cameramen HARMON LOUGHER, DAVID MYERS, JERI SOPANEN, VILMOS ZSIGMOND, LESLIE BLANK, ROBERT GRANT, JOE LONGO, ROBERT THOMAS, WILSON WORDIE



●シネ・ヴィヴァン・ナイトシアター

10月30日(金) 独占ロードショー!

夜9:30よりレイト・ショー(毎土除く)

特別鑑賞券1,200円絶賛発売中(当日一般1,500円・学生1,300円の処)

都内各プレイガイド、チケット・セゾン、チケットぴあ、セゾン系各劇場他でお求めください。

グループ観賞のお申し込みは(株)メイジャー ☎ 03(841)2808まで。

CINE VIVANT

シネ・ヴィヴァン・六本木

地下鉄六本木駅下車1番出口 WAVE地下1階

お問い合わせ 03(403)6061